



上毛電化株式会社
J o m o E l e c t r o c h e m i c a l

SDG s Report 2021

環境活動レポート

(2021年5月~2022年4月 実施)

環境方針

1. 事業内容
2. 主な環境負荷の実績
3. 環境目標及びその実績
4. 環境活動の取り組み評価
5. 代表者による全体の評価と見直し
6. 環境関連法令への違反・訴訟等の有無
7. 環境情報の開示

Sustainable
Development
Goals
Report



発行 2022年 7月 15日

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは、2015年9月 ニューヨーク国連本部において、193の加盟国の全会一致で採択された国際目標であります

これは『持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）』として社会が抱える気候変動や格差などの幅広い課題の解決を目指し、先進国も途上国もすべての国が関わって解決していく目標であり、世界全体で2030年を目指して明るい未来を創るための17のゴールと169のターゲットで構成されています

上毛電化のSDGs

上毛電化は、企業理念及び環境方針に基づき、SDGsの達成に貢献しています
SDGsから9つの目標を特定しました 目標達成に向けて貢献し続けていきます



環 境 方 針

上毛電化株式会社は地球環境との調和を図り、積極的に環境負荷の削減に努めることで、企業としての社会的な責任、使命を果たすことをここに宣言し、以下の環境方針を定めます

- 1、 環境保全に関する法令等を遵守します。
- 2、 環境負担の低減・環境汚染の予防に努めます。
- 3、 環境管理のPDCAサイクルを確立・運用し、継続的な改善及び汚染の予防を図ることで、環境負担を低減します。
- 4、 この環境方針は全従業員に周知徹底します。
- 5、 この環境方針は内外に公表し、要求があったときはいつでも公開します。

上毛電化株式会社
代表取締役 堀口 研



事業内容

1. 事業所名 上毛電化株式会社
2. 代表者氏名 堀口 研一
3. 所在地 群馬県藤岡市三ツ木 336-6

4. 環境管理責任者および連絡先

責任者 清水 由紀夫
連絡先 TEL 0274-24-3228
FAX 0274-24-4841
E-MAIL y-shimizu@abeam.ocn.ne.jp

5. 事業活動の内容

顧客より支給された金属加工部品に表面処理を施した後、顧客へ納品する。

アルマイト処理（陽極酸化処理）

- ・普通アルマイト（染色、光輝、艶消）・硬質アルマイト・潤滑アルマイト

アルミ化成処理（アロジン代替、クロムフリー）

- ・マクダーミッド

鉄鋼化成処理（黒染め、四三酸化鉄、パーカー）

含浸処理

真鍮化成処理、真鍮化学研磨、バレル研磨（バリ除去、光沢）、ショットブラスト、

バフ研磨、各種表面処理

6. 事業の規模

資本金 1,500万円

従業員数 38名

床面積 1500㎡

7. 認証・登録の範囲

上記 所在地及び事業内容に準ずる。全組織・全活動

8. 会社沿革

- 1981年 資本金 1,500 万円にて営業開始本社・工場を群馬県高崎市江木町とする
- 1987年 本社・工場を群馬県藤岡市に移転
- 1996年 鉄鋼黒染め（四三酸化鉄被膜）処理ラインを設置
- 2002年 硬質アルマイト処理ラインを設置
- 2005年 アルマイトラインを全面リニューアル処理能力の増強及び環境対応を図る
- 2008年 ISO9001 認証取得
- 2015年 含浸処理ラインを設置
- 2016年 全自動アルマイト処理装置を新設
- 2016年 エコアクション21 認証・登録
- 2017年～ 環境活動 継続中



主な環境負荷の実績



項目	単位	2020 年度	2021 年度	前年比 (%)
二酸化炭素排出量 (対象：エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	603,075	634,654	105.2%
廃棄物排出量	kg / 年	73,855	80,430	108.9%
一般廃棄物排出量	kg / 年	2,260	2,190	96.9%
総排水量	m ³ / 年	21,225	19,859	93.6%
化学物質使用量	kg / 年	1,195	1,174	98.2%
原単位 (CO ₂ 総排出量)	kg-CO ₂ /売上(百万円)	1884.6	1813.3	96.2%

環境目標及びその実績

項目	年度	2020年度	2021年度		2022年度	
		(比較値)	(目標)	(実績)		(目標)
電力の二酸化炭素 排出量削減	kg-CO2 /売上(百万)	714.4	-1.5%	719.5	+0.7%	-3%
ガソリンの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO2 /売上(百万)	46.5	-1.2%	33.0	-29%	-2%
軽油の二酸化炭素排 出量削減	kg-CO2 /売上(百万)	144.5	-1.2%	146.7	+1.5%	-2%
LPGの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO2 /売上(百万)	919.2	-1.2%	852.6	-7.3%	-3%
二酸化炭素 排出量合計	kg-CO2 /売上(百万)	1884.6	-1.2%	1813.3	-3.8%	-3%
一般廃棄物の削減	kg/売上(百万)	7.1	-2%	6.3	-11.3%	-2%
産業廃棄物の削減	kg/売上(百万)	230.8	-2%	229.8	-0.5%	-2%
節水	m ³ /売上(百万)	66.3	-1.5%	56.7	-14.5%	-1.5%
化学物質使用量の 適正管理	(kg/年)	1195	生産量 適正值	1173	適正	生産量 適正值
本業に対する目標	自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関しては、 上記主要項目が直接関係しており、化学物質を適正に管理すること、 不適合製品の削減を活動の目標としています。					

※電力排出係数は 0.455 (kg-CO2/kWh) 2018年度東京電力様の数値を用いて算定しています。

※原単位は kg-CO2/売上額百万円にて算出しています。

環境活動の取り組み評価

取り組み計画	評価	評価（結果と今後の方向）
電力の削減		0.7%増加
・冷暖房の控えめな使用 (冷房28℃ 暖房20℃)	◎	冷暖房温度の控えめな使用は効果が高い、継続して進める デマンド監視
・生産設備の効率化	○	生産の効率化が進んでいると判断できる
・圧縮空気の洩れ防止	◎	効率化を全員で取り組み、ムリ・ムダ・ムラの撲滅を！
・照明のLED化	◎	
ガソリン・軽油使用量の削減		27.5%削減
・エコドライブ 運動展開	◎	エコドライブは定着している。
・アイドリングストップ	○	ルートの選定や効率を図りムダも軽減されている。
・急加速の抑制	◎	
・冷房の控えめ使用	○	Web 対応が増えている影響もある
・買換え時は燃費マークを優先する	—	継続をお願いします。
LPG 使用量の削減		7.3%削減
・保温断熱の励行	○	加温調整やムダ焚きを抑え削減に成功している
・ムダな加温撲滅	○	
産業廃棄物の削減		0.5%削減
・工程ロスの削減	○	主だっているアルミスラッジは生産量に比例している
・簡易方法の検討	△	
・分別の徹底による有価物化	○	汚泥の含水率を下げる工夫を継続
節水		14.5%削減
・洗浄工程の改善	○	生産量に比例している
・手洗い水量の適正化	○	効率化が進みムダな開放が減っていると思われる 観察を続ける
化学物質の適正管理	○	SDS により適正管理

※RoHS 該当化学物質の加工は今期もしていない

次年度の環境活動

取組内容

・省エネルギー 省資源

1. もったいない活動の推進
2. 不適合製品削減
3. 工場内設備、照明、冷暖房の有効活用



・廃棄物減量化

1. 廃棄物分別徹底
2. 包装材等のリユース推進



・環境配慮

1. 環境負荷物質使用量削減
2. 環境負荷物質排出量削減
3. 化学物質の適正な管理



・その他

1. 環境自覚教育
2. 顧客への簡易包装・通函使用のお願い
3. 不適合製品の削減



代表者による全体の評価と見直し

環境目標について、目標を大きく上回る成果を上げており目標の必要性の浸透が出来ていることが窺える。

受注が大きく増えているが、一方で生産効率の低下が懸念されるので注視してほしい。

あらゆる影響で市場環境は厳さを増している

省エネルギー化に向けたいくつかの取り組みを継続し、地域社会の一員として環境負荷の継続的な低減に積極的に取り組んでいくこと。

環境関連法案への違反・訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

関係当局よりの違反などの指摘は過去3年間なく、創業以来継続しています。

法規制・条令	適用される施設・物質	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物	○
水質汚濁法	排水処理設備	○
毒物及び劇物取締法	薬品類	○
特定化学物質管理法	届出対象外、定期的に確認	○
PRTR法	指定化学物質の排出量等の把握	○
消防法	消防用設備	○
労働安全衛生法	管理者の選任、健康診断の実施	○
群馬県の生活環境を保全する条例	排水処理設備	○

環境情報の開示

上毛電化株式会社の事務所、

またはホームページ <http://www.alumite.jp> にて開示している。